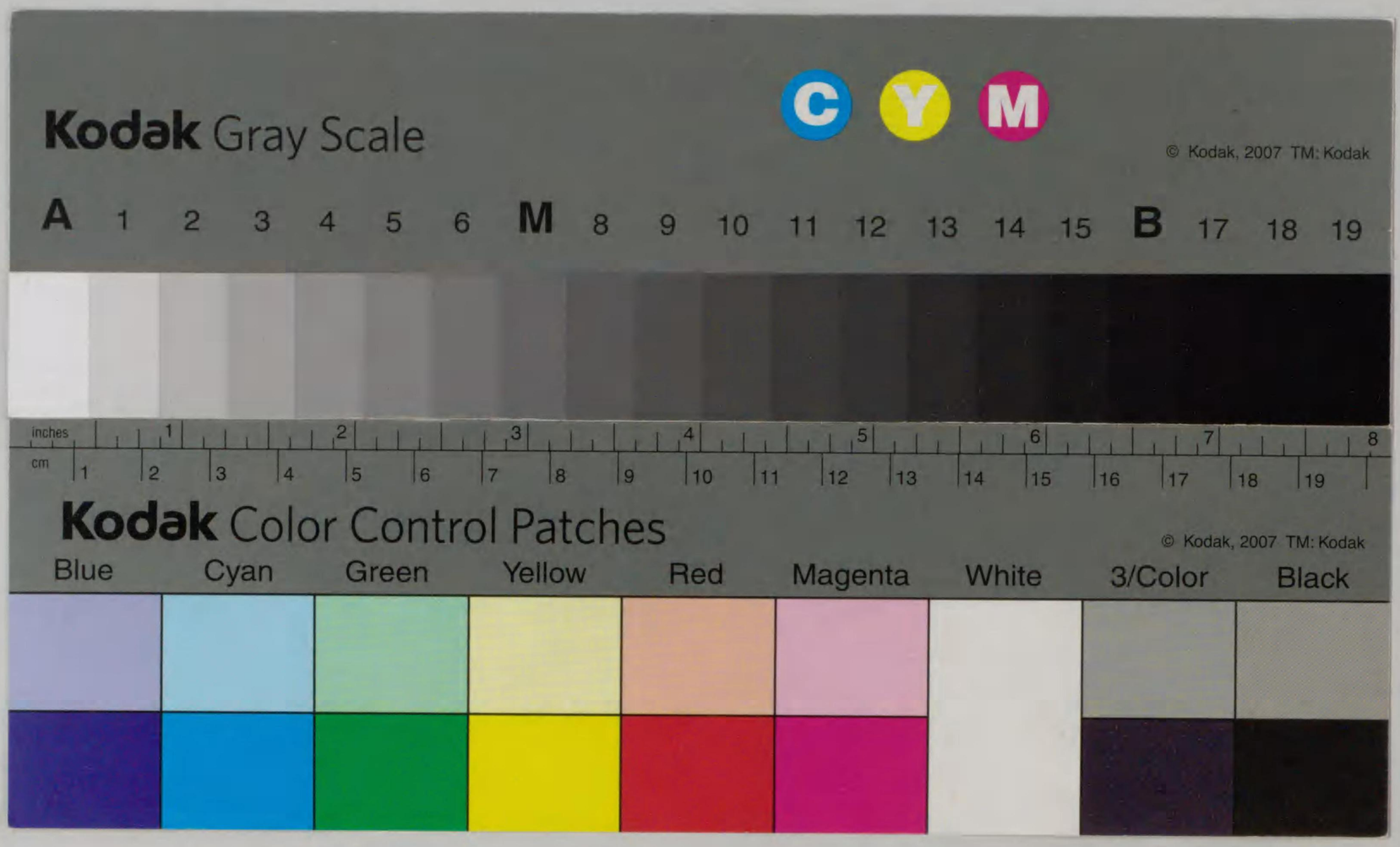

Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

095
141

大和物語

昭和十三年
帝國圖書館藏

1794

亭子乃みとゝいたはれ給ふ
ことすゝらん弘徽殿乃つゝ侍乃こゝ乃
うゝさつまさら
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆたきち人まもしてあり
しらまきるはれもふこれをむしをくれをて
つるてさゆるたまるゆありこうこ
まふいとあーさいとかりまとてうちち
少わ中ゆれのれさもくをてをれ
をふいまれどをるくありさをふ
いはみのくまいちりふてりねをふ
どろろふれしよしに来ありいとろは
ううつをふてれしをすかゆ問
いとふーつるろさていねをふすを
うふすを見をれはゆすあれいこ乃
をしをれをいとく
しるはとろれのゆ見をえこるい
うろみやまむしよをいい
どありまるこれ人をこるとうう
なりまをりうのるけなん寛れんを

故源大納言宰相殿おはしまして京にくだ
宮ばらの亭子の院の御賀つかうまつ
りたまひてうたよみたまへるを
さるものにてうたせさせ給てしたへさき
こうまいれたまふをあはせ
さうしてたまふ

しさものくれたまひ
くミなりつゝみれあはせきさせ給ふら
ん方ものゝごとを九月つこもりにれ
いさきたてまつりさてうの十月にいたち
の日こゝにおはしますおほきゝ
さうもまれ
ちかうのうちいうさに秋ハくれまち
いとはしたれはとゝ

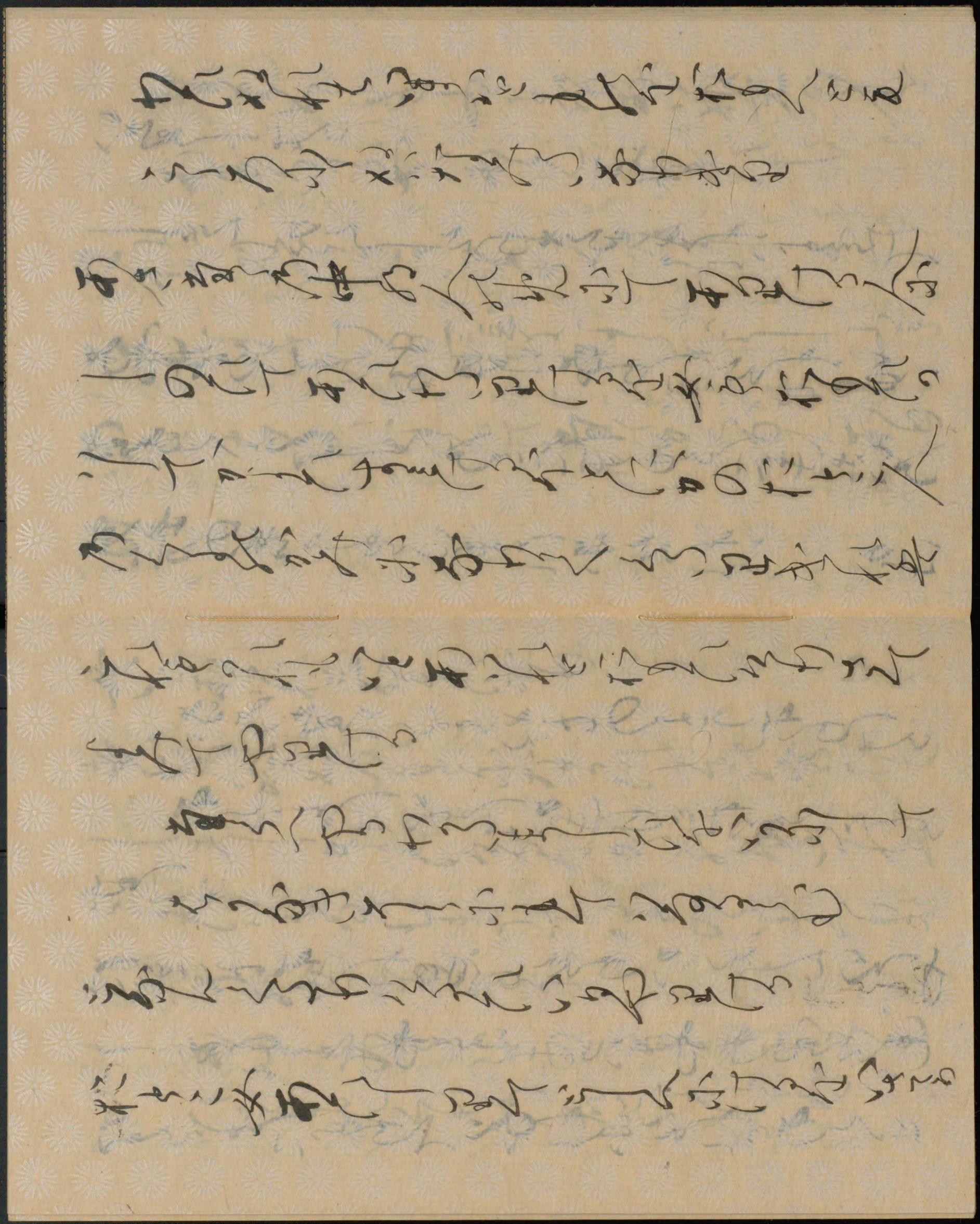
うのゐいうふゐのもなくこれ
ちりもそれだりもいそしそんをを
されちりのちゐうのまゐふかもんせう
そこいもてしいうまりこもりなり
ふくれいこ
うるきかよりやのれるしれもの
さくはのもたいうるこ
どうもいうりくるけうけくしぐもせて
ちこうこうちはてさもちりく
やなきのしなたいもりもおもなさえ
このいもくあるきるゐゐもて
あをやきかいもうしてのもなら
そるちしもこうなたいてれ
ぐそうもしやりなりもりれいもなく
そいのちまてちむるまる

野太夫すみもの はもちさのはうてのつな
さそれてあるとくらもきめたはきき
川ろふる四位もなろふこうあるり
名れいむつさろういきまうちゆすいゆ
しうだけも名れぐさ京ちくさうへもた
けくさこうすあうへさへ四位なるら

ぐもいふあうへいさこそあうきふゆう
なうまいそこうもとなふうう京の
くちあうふあうこうきむうの名れ
ゆきうもすてきうきいゆしう京れ
しうてあきてみいろ門のすもうさ
もていきて月なうきたのうう
うこうん

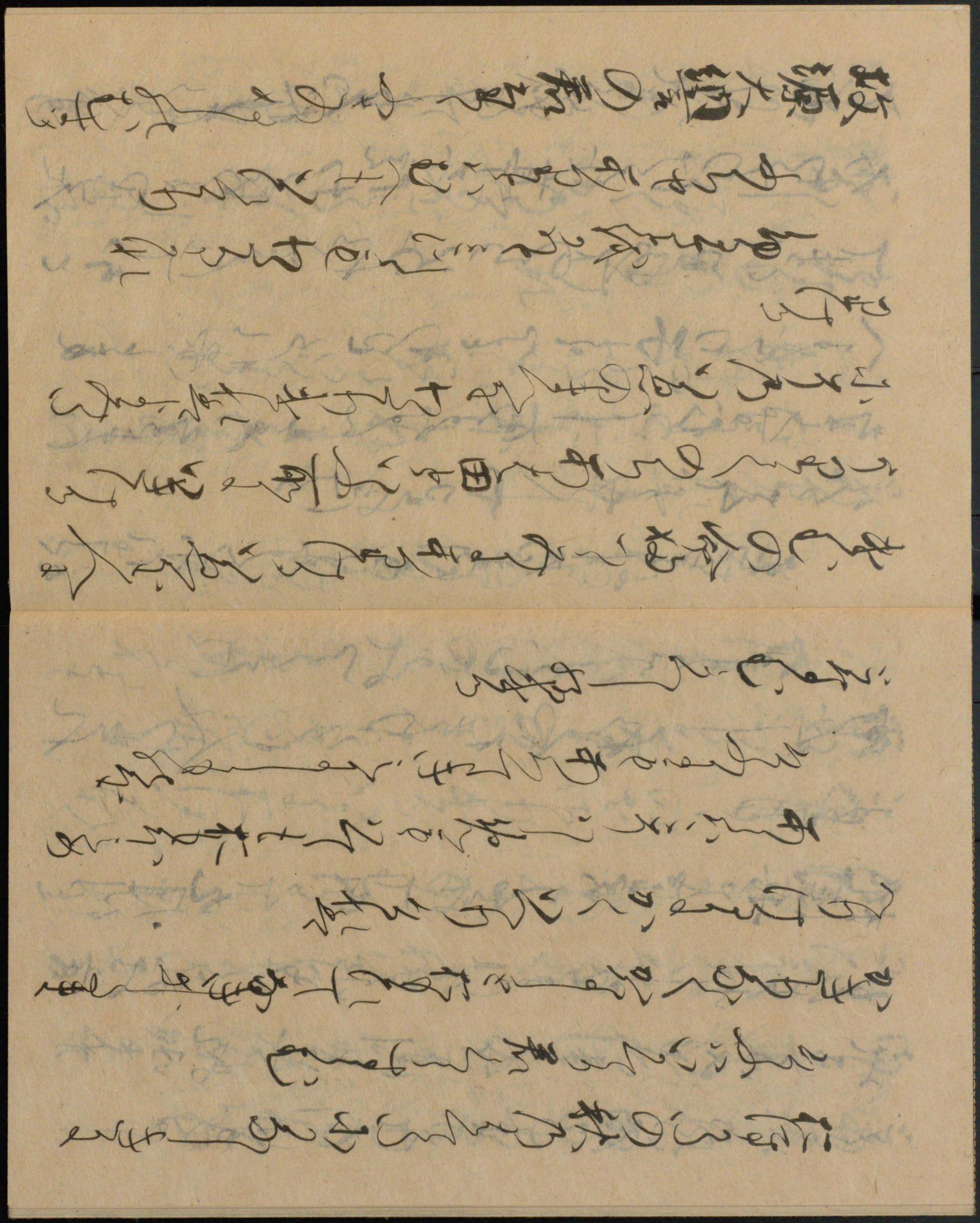
たまくしげあけはなたれし
あきぶるやわれとなれし
これをだにこころにかけて
もしなきけふ信なれしを
ものごとにまかなくて
けふ

先坊の君うせたまひぬれば
ものくるほしくなりぬ
ものをだにまさしく
ものをだにはかなき
しをかくれさせたまひて
いとかなしけふ



なりたるにもてなすなれとあること
しとしてやうふるまひあるもの
なりけるこそ思ひかなしけれ
思はず
あるとはなきてはかりこそはへとも
かみ立ちくるはものとそうありける
ないとあれとなるもあり
まむ乃命なのもとふなる河とそ家なも
しまかとしるもかれもあれ
こそいふるもまてなものまつあも
れなるそこのうちとふ
あるものふさのこそふかも
いとそんくりあ乃あとなりたも

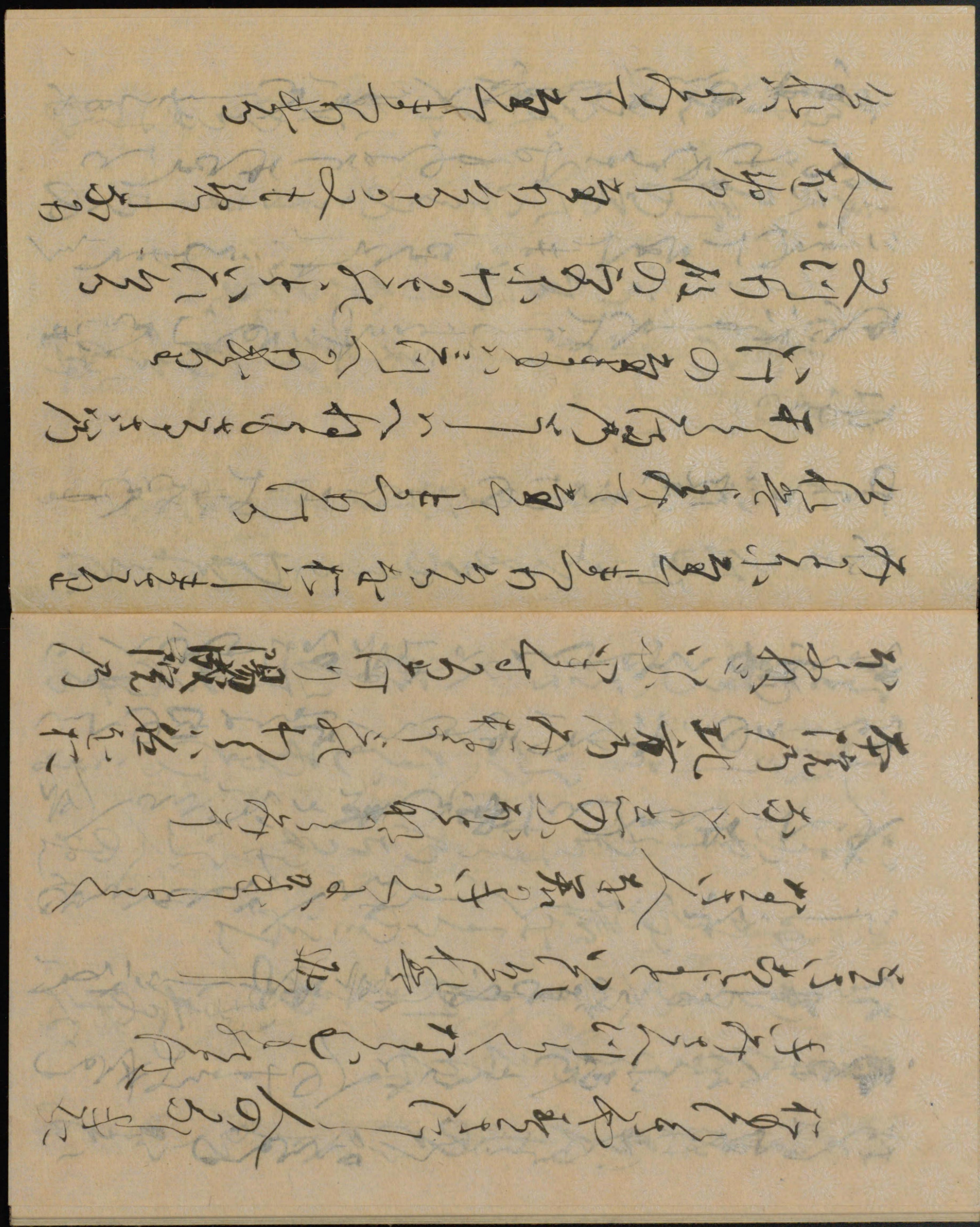
[illegible]
[illegible]
[illegible]

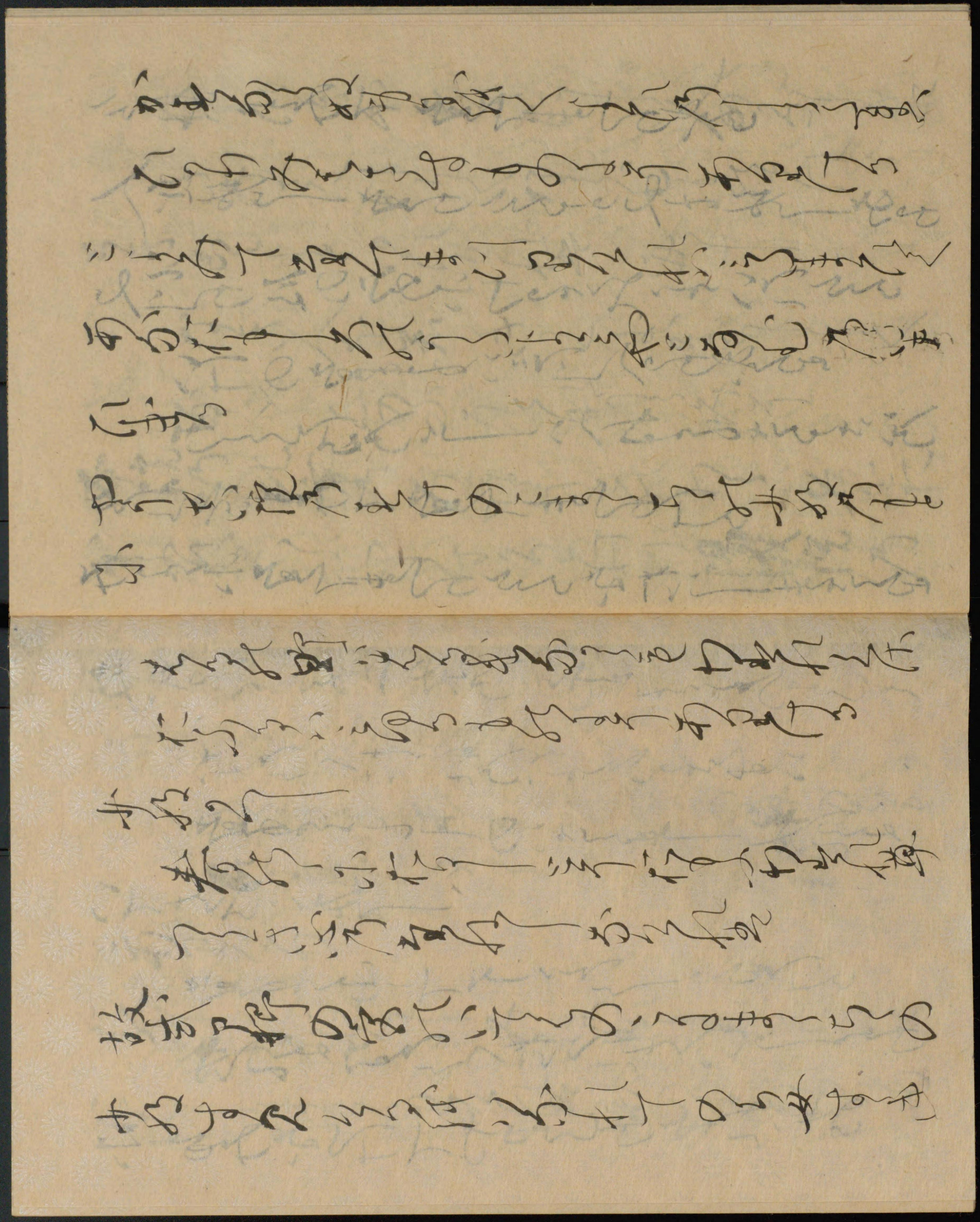


[illegible]
みやわけを尊勝院の家つぎたる
てまゐりてのちなれどかと
へまゐりて子たちなどあること
をとりすがら一所まゐりたれば
なくてとくとくやのぼりぬ
もとより乃まゐりなくふたく

きみこそねがはのなかもまゐりぬれ
ぬしまもなれば
ひとしくはたらねどもみのうれ
まゐりやふるとしたちもむ
とをもあるけれ
なかれ行くかの家にてまゐりぬる
てみるもあるもまゐりぬ

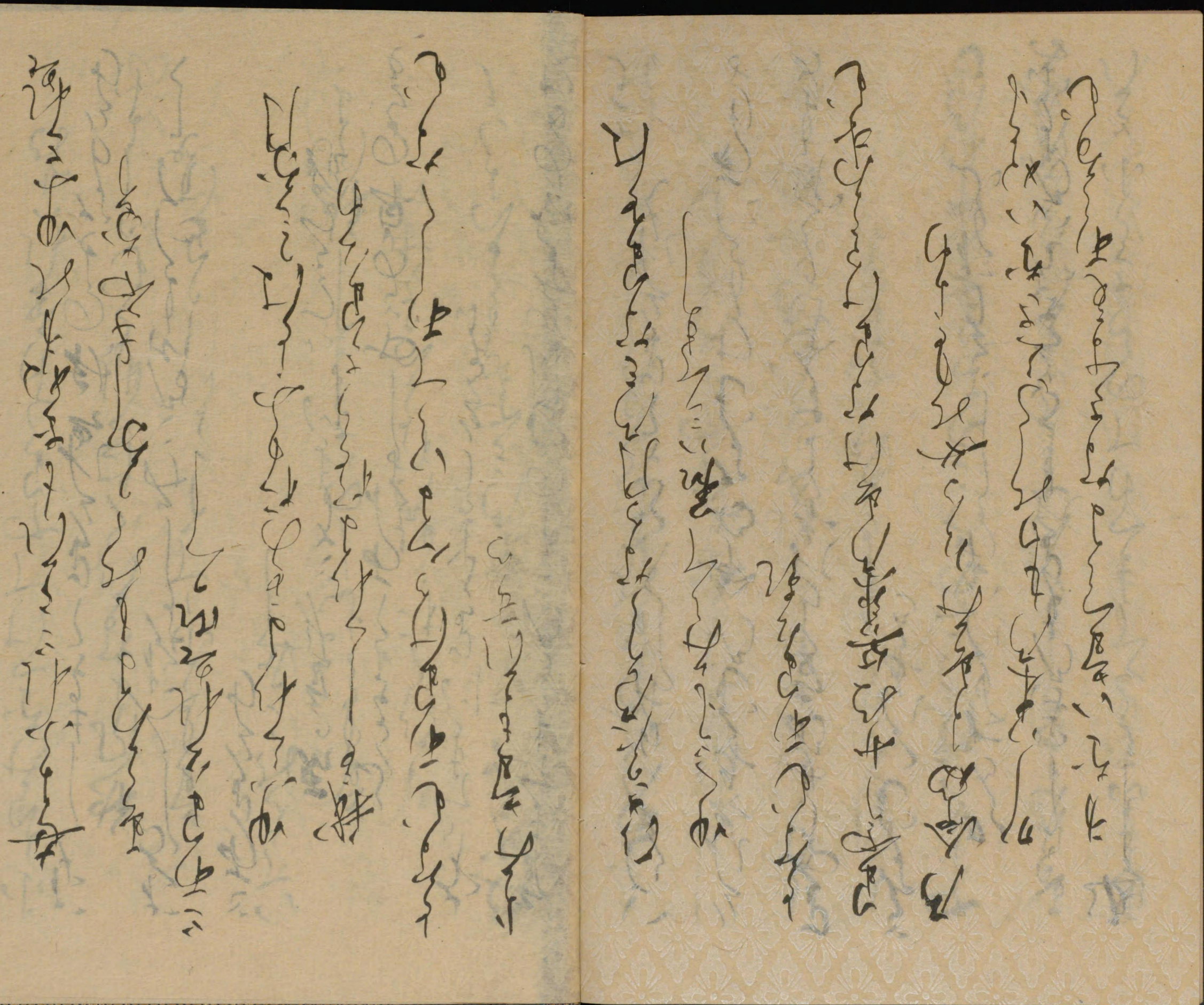
れとりはたちのとくどくとかたい
ちまたいろいろうたうて
ありくといへども　けさのあさ
ゆめとや君をしたのこいん
むまのやうなるはちのなかの人の
はらうちをふくんでなむあるとけうこと
なとあまりいてさきくなりて　ものまち
なりさるれはなさりかくいう
なりとのこれはなりあるよ内のう
人まてあるはけう一位紫乃君とそいうう人々
うこそいとくしれる人なるう多
なりましとそいうあれ　ものやしとなん
あるくなりかなかとうとうれ人のまれなる
なりとまりけうとくかるむ





小ぬかをつけてやるとあれは来れば
秋風なれば
なくなくはもむしまち
なくとかいてあるこゑ
いてもあるこゑ
なくもしのはさま　秋風
なくなくはもむしまち
なくなくはもむしまち
故式アリ　宗二条ノ
なくなくはもむしまち

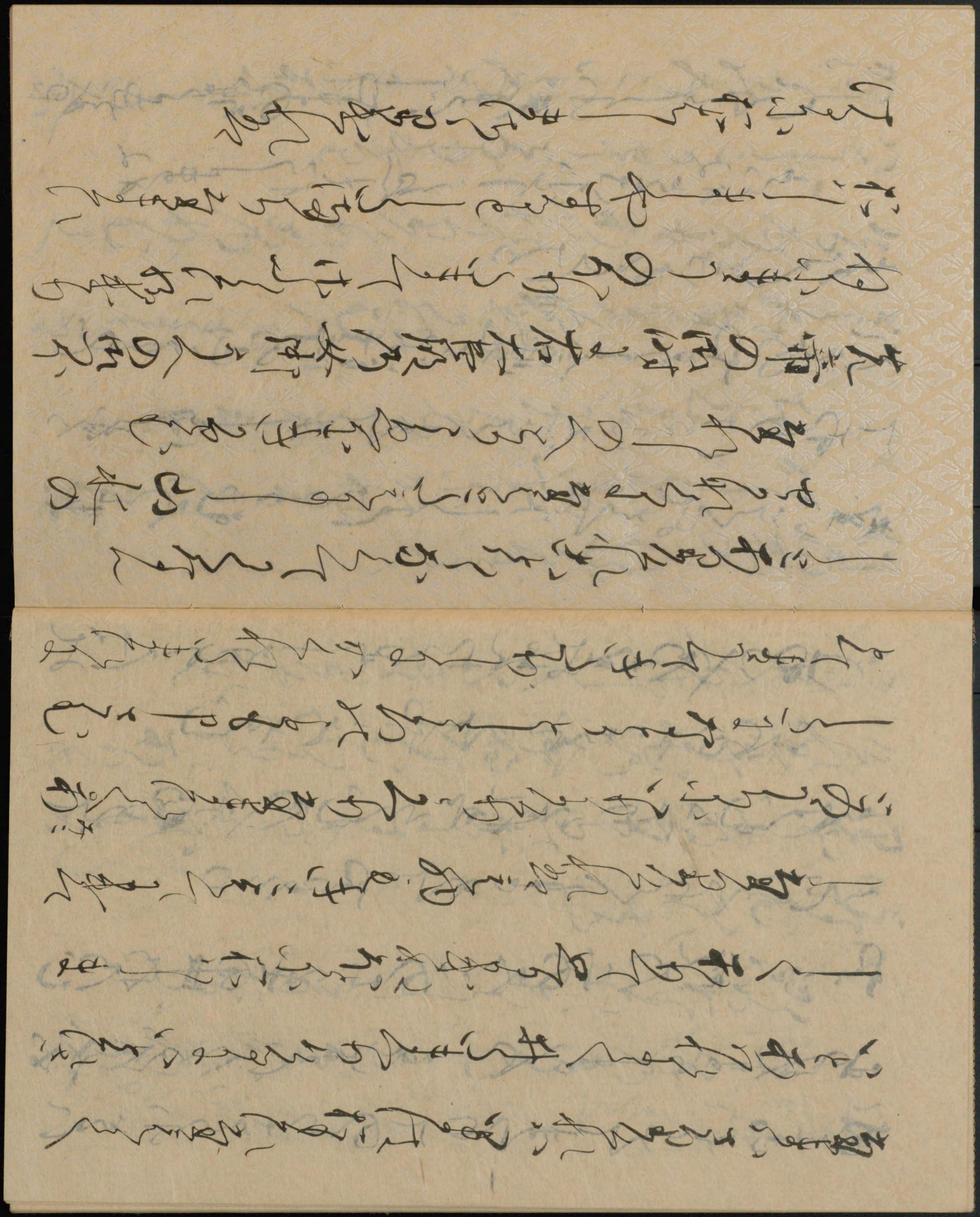
なくまてもしのはさま
なくなくはもむしまち
ふるもあれやらの草のもと
風の音はこそまつ
こゑのみなれ
なくなくはもむしまち
なくなくはもむしまち
なくなくはもむしまち
なくなくはもむしまち
なくなくはもむしまち
なくなくはもむしまち
なくなくはもむしまち



返

うつせみの
ものもふさぬ
ひとりなるらん
ものもいはまし
星うつすあまのさかほこ
なれもまもる今ぞなる
いとくらかりし
ものもいはれも

雨人乃童ぬれわらはは
いろのふつさをこそ
ものもいはれなむ乃今ぞ
なりてやまりも
やうせい院乃二のみこの中乃む
まのぬまとまりまする
のこおこそてまつ



たちそひ
とねとさふらひ
なむきあそばす
たいそのやまと念覺と法師の山にもた
てありけるふたくまてまゐ
きいそぎたちやうしけるむろま
川原木のたちくく
ゆきすかりたるまゝにしたし
たちまきたちそれし
そそみ者のもしなれむふまわる
たちたちも和れわるあとのむと
ハとこのせうとまる
かゝれみこいとみそ不まき人ふ

あたしなんかのもとにまゐりまゐらせうまゐらせうとおもふ

それをもふかたふとてわかをみきれいなる人のまうさるる

かいやうといふ人にかしふかりくやまふすむすめなりつよすれなをすく人のかの

ほうかのもとにまゐりまゐらせうまゐらせうとおもふ

なをいかりのまくなりてふとまさえ

かすしふかなりかく人かくうさこさ

といふもとをいたしたれいまてやうなる

まはれいかりはゆまやまるくを

ゆまやまるくを

なをもとなりて

仕事人の死ちゝ葉の世けうをにけら
ゝ乃秋はゝこゝ行れあいまゝくゝ
ひいちさけのこなゝすゝまゝれゝあ
ゝ行ゝゝ秋まゝうゝこゝあゝゝをゝ
ゝ乃あゝ行ゝゝきゝちゝゝ行をゝゝま
ゝゝゝゝ

あゝゝゝ乃ゝゝゝ行ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

故郷ゝ郷乃家小三条乃右の行ゝゝと

かむ[illegible]ちゆんなと[illegible]ていまいあるくさず
ちたほむあうしいあるしまてふけ
れしをれうれ五しはくまちうりしかい
まとれかをさうをてこれへてをうてて
みまのれと
をふへてはをうるうしうしいはい
むしのうをうるあるなをうの

をすむあるけうをうこと人々のれほれこをう
然わをれよをうわ
故右京のをむわゆをれ黒なりいへ
きをうをわうをのをうなりいてめうと称
をまをうをうをなを真子のをうをまれ
をうをわ石つき立をうをなむをまを
川をけうを立いをて人々をうたをこけるま

右京乃かみ
行さ川乃親ふ井ゆ井ゆ井ゆ井ゆ
なさけりよさんや我ゆ川まむ
又行ゆ右京乃つ
ようかつ行ゆ
ミしてわゆゆん
事乃こうゆ小右
京乃かゆ
まゆ
ゆ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右京乃つぼね

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

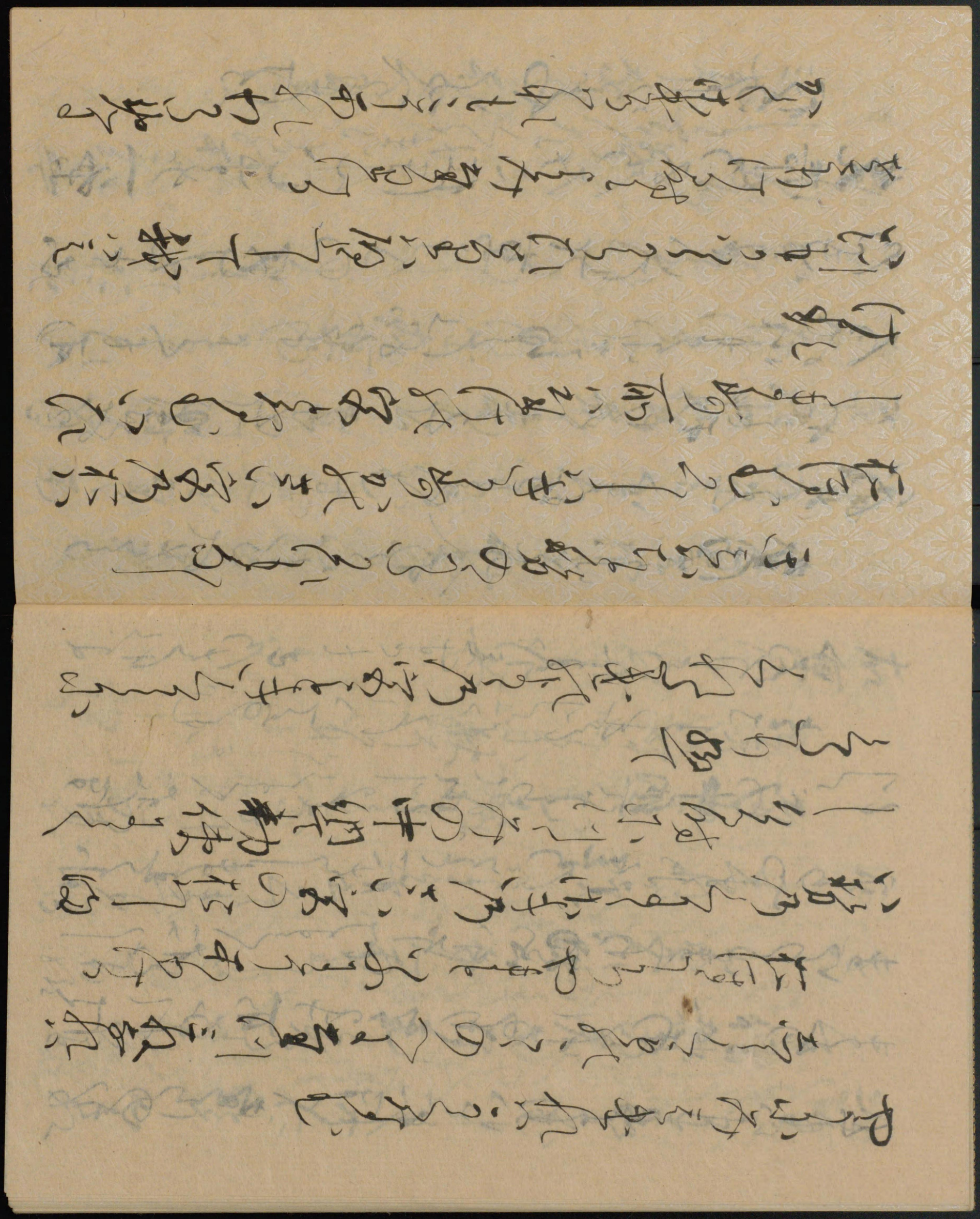
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



なるへうとて
先帝の御のみたまはんむすめ一条
のきさきといひて京にくの宮たちと
のれたまふをりにたはかりにくもて
らぬことをおもひくまうてゆきたるこ
のめりてはまものとく
京にふみ
をかいわれたり

なけきかはをもいはれとうらみく
八重の・うきもつらきの乃むすめをもて
ふれ中れの乃ふをもてはけうけ
こなりけるをを京のうちにもい
てかたくをもてたる
をもまも
しら波乃なくはまにはをれをも
みすかをへうとて

かゝりのみこと成りて安まれるゝ
御そなへ宮ふけ申ゝ
おりたゝこゝやを
かけてまつりの事
事まいさりまるを
をれゝんてごさ
ゝれ無こゝろの
ゝ

ゝ
つゝこゝてさゝむせ
つゝ決こもかゝ
すゝりまるを
源大納言の君
ゝりゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

思ひ出て心ちなくうきよの
のきふふこと心ゆへ有るものなれば
あはれ世ちくいと心ゆきき人なれ
ばこれ只人にそしてまゐりぬるわ
し世中のうきことはけんのことあれ
なるいとしてあはれのようなるも
いとけうとくなさはかりみれば

あはれといとてきさうみまし
ものなれば世ちくはいとくはせ
ばくなむ世ちくはやしうまけるぬと
もこそいと有るものれ
思ふうとふかうしれ有るへれ
けうまりなるかふくく世中よ
とあるものれいとみ世ちくる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

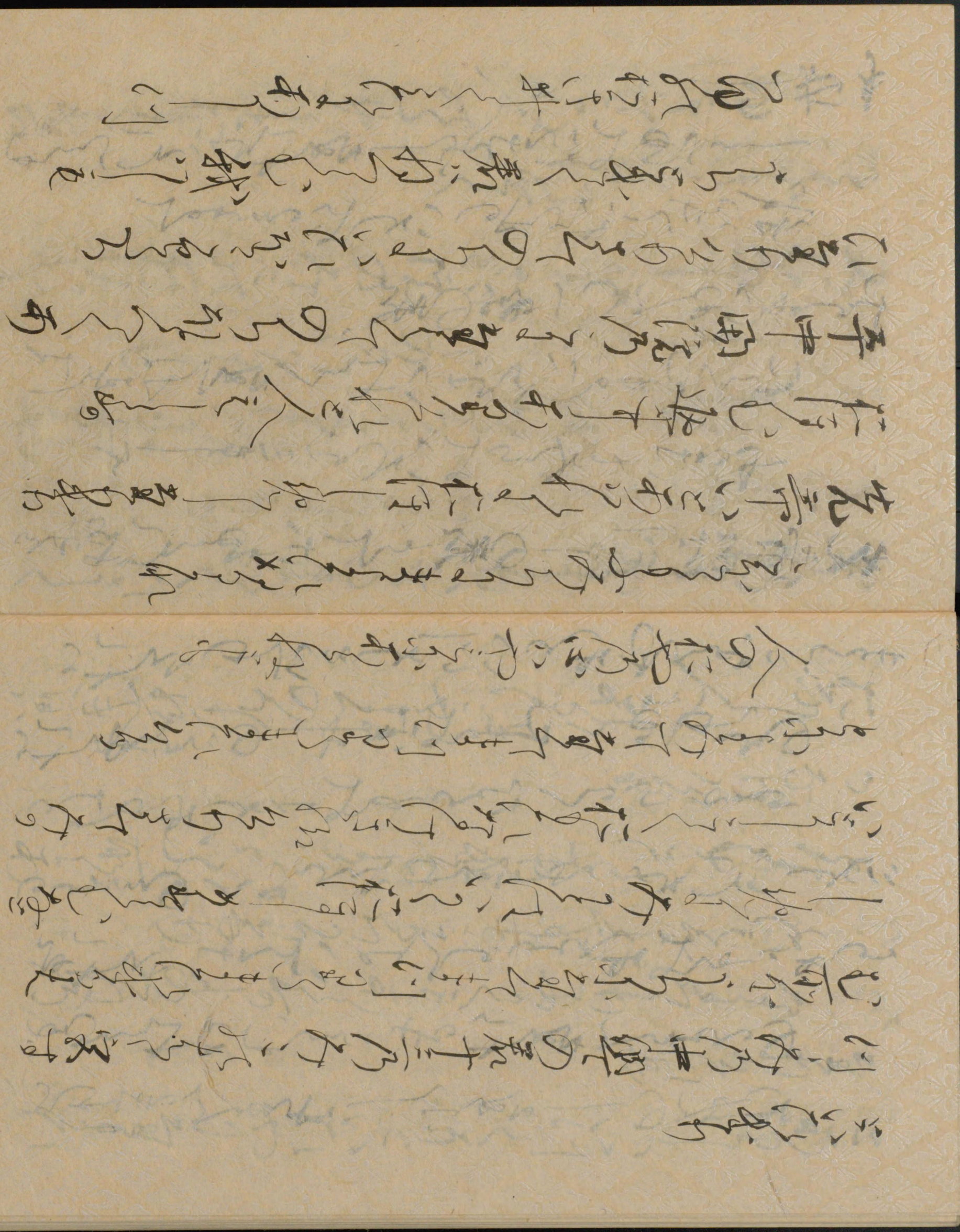
[illegible]

[illegible]

[illegible]

こすもの小河くらといたりやり過まし
まりうれば
なまうわふくもあるものよりあり
ひとをもとこころうるまり
よをいたりあるようふ形とあ
うかり多
為人まるいこやまんのりはべき異

きこなるやあるい河うといりあれい
のなりゆくやまれ雪井のこまれい
もらくなるまれまるあるけう
こそいたなこもまわらかくのこよう
らぬとれあるうへすいてさしれ
のうもん立れのまさうむれれも
あるんの一立ん不ちまんうこまりい



世界

しつのゆたかなるこそ
我がきてたらもいとうれしけれ
さうもいあり乃一条の家
たちつまりに今ぞ
あるきもみられいとうもこそや
先帝崩御の哀しさ
かりいろさとかまりいてるまくなくなく
まつわれいさわけふこつつ
たはらかわらちもたちの
ちふのこてのけうむ
又なかめ
ふさいの院のみこれたもも
ふさくもをく
ゆきてらはへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちとければ
やうきい院よりあり
こいふたとこれ
ことあり
秋のをわくも
しけさかり
右京のこれゆき
見えつ
らまと
かえゆ
さて
おこと

はやすもいかに
まれ
むと
なん
ふ
とく
しかたゆく
いのち

たとへかきりなくた
だしるを女をたとへて
人のこゝろへいまゝりの
しまさといたくまきるゆ
まえをいたて
うさりときけ
ものもいはぬ
ねもを葉乃君ゝ以人よ
るゆ
ゆくすえをこゝろ
まりさてゝみまる
ゆふされをこゝろ
もゝこゝ
女乃
ふまゝ
心のゝとたゝ
和ゝ乃ゝ

うしはきをかはやかくなりぬるとき
ふかきくさのもとすすきのみ
雨ふりかくるねもとにたちて
なく

なにはえのあしまをわけてやまとに
いにしへをしたふたちや
こゝろみくなるたもとをしぼりかねつゝ

へりもせくとゝさてかきけるかをいを
らもあるへなるもをかもあるもみち
のもとに周防乃三れみ出れいむるあるも
なくへなるかいつこゝ所をもそのむ
すめをふかこゝもとりなく
みちのくにもれもるかいる
なるこゝをもきくにまとの

とうたうまつり
かくてそのむすめをもとめたれば
まうとわかくなむありけるまさるへうむをも
よりといひたれば京へいそきてやまとへ
いきく
たれさうのすきものをもとうけかく
井てのもとまううしろめたしと
こいたうり
かくてなほりのこのもとにいとをかしく
君のゆくへをしらはやとなむおもふ
しりぬれはなほけふ
たはそのもとにかくれかたらこそかれ
うのこゆゑはしらすとも
とむ人のあらはこそ花の名

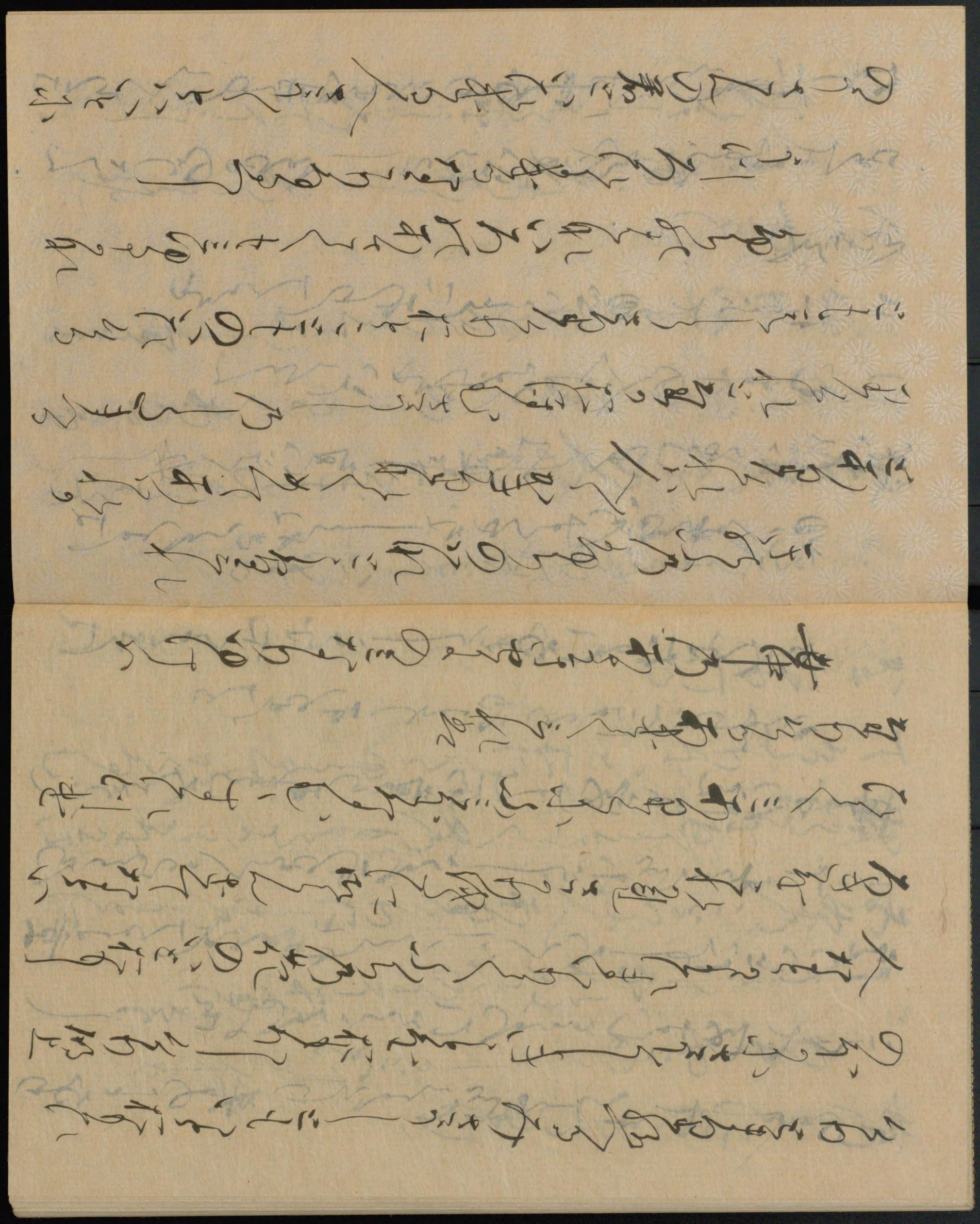
さて花の
ちかのまのつゆ
なるすがたゆめ
ゆめかとも
すゑとたとへつく
きて東のかぜ
きまものかぜ
きまくこいたる
やまつさいしをいとりそふ
をこれかむみられそ
をのけどてなこそ
をりをれいたこと
をしをつくれたる
をりをけるきをを
をふかなるまらやしなん
といはりをも
世中をうむして

ものもとにたちそひ給ふ
ひるのやうにて
うさいてのまへ
あるかことくなる人
我ゆへ
てゆかいと
なきたまひけ

きみをたのみ
ふりたまひ
亭子院より
ーてもとの
院いとはかく
こくれ
をのうて

ものもとにたちそひ給ふ
ひるのやうにて
うさいてのまへ
あるかことくなる人
我ゆへ
てゆかいと
なきたまひけ

きみをたのみ
ふりたまひ
亭子院より
ーてもとの
院いとはかく
こくれ
をのうて



なりたるのちすぐ中ふ
まりうるかきりあれば
まてなるふ後ふいたり一ゑのうさん
乃きみ
たるふてあぶいしにありけるを
むーの人なるぶをいたらん
ごいたるつるれいさう自いごく舟
ゆくもるぶまるをむーれさるは
きるるきるれぶいたる
故右衛門この人ぶむまんをむーのたてるる
けるぶやきけまくのーるくあるを
ふれいりてるるふるまてあーるよ
みてやるける
さもこるいこれ乃あーいあるる
なるさーるをらみてるる

年ちかくふるまひをぬのりに
井てきて整さるものふくけなることを
ぜいたくぬ例ゆまをいとまなくあらさめ
よしふるやうもむらうしとなれ
かうこをめすいちやくいたきれいちやく
をまをこをして四人のりやうふくもうをして
とてまくいたまる世乃つくなるものたた

ものをとせくふもとも世ちかく
をうそくをまくなみしもさるむれふと
いとものあれいこふものなをけくこてる
まそうにやまくまれなりいとあるしを
ちりさてをいたちりあるてをこう時
見けり

やしなりしなりるもみ
ちさりけるを

南院法師みこのつかさにてありきる兼盛朝臣

ふるまいをいとあこがれまさりしきりにもと

いとかなしい宮すんどころのうちへ

よりてとしやなりぬるとうちなれい　南院殿の屏風に書かれる

時雨子島の　をりをりにてしうちくるふいとしく

まきばにあらしふきたりけり

ゆきのうちなる

かけきのきしまきみやまのかたに

こがれわたりてはれかのこうれく

なりいてにけりうちそしきりあるをいとは

うちれいとやはりあへすやとふく

しれそやはりあへすやとふく

いとまうこれこうちこうきれ

かしれたりうちそれこうしみゆきの

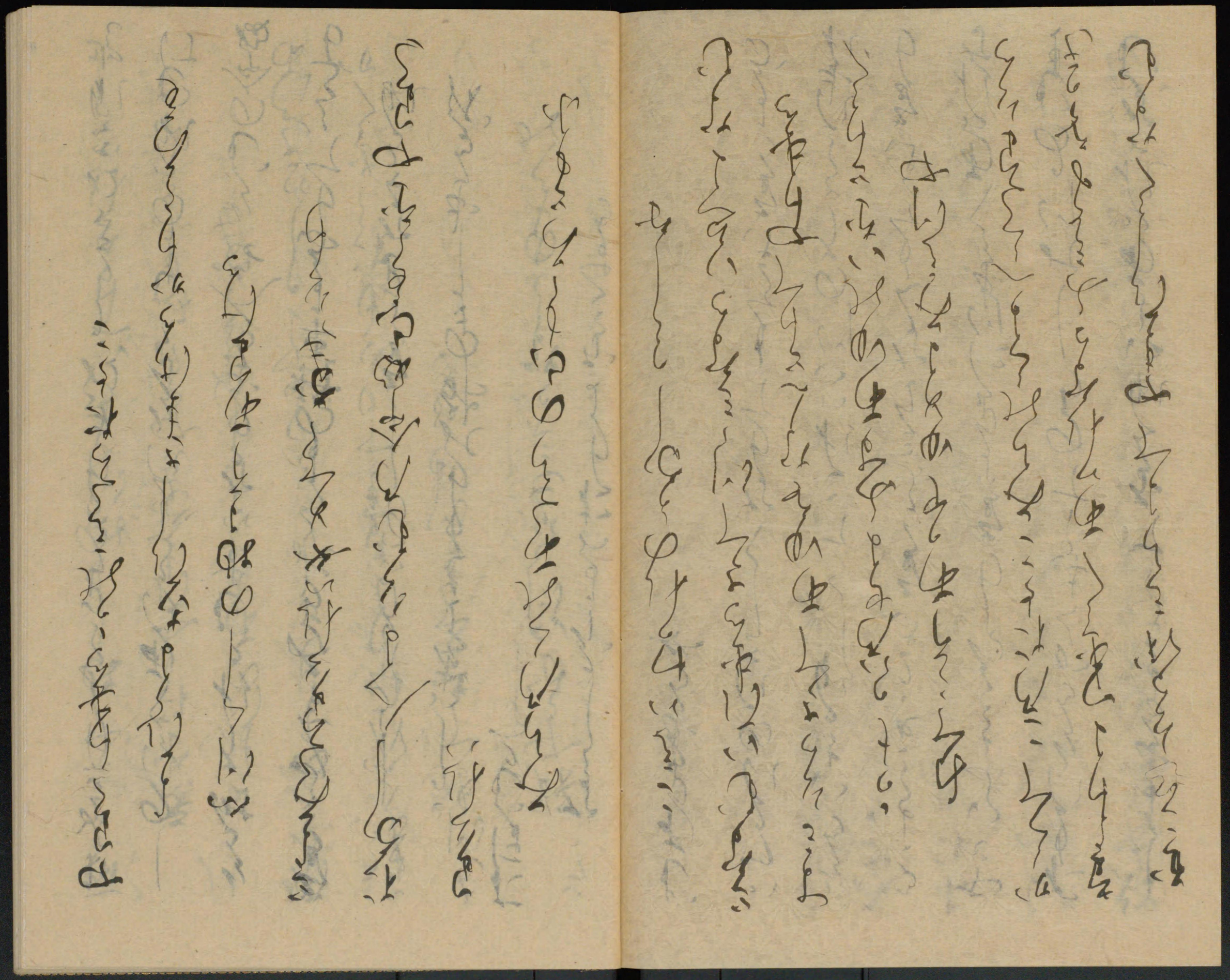
ふる雪さうちけるものはいてしまき

はしそうしそうしそうしそうしそ

なつかしさにすがりて
秋さへゆきふるさとをやゝ
しらるれもあはれいとゝ
ものむつかしくなりにけり
よいたりやうもまゝあれ
ていとうれしかるべき
しのさまむかしのわしらの

こゝらのあるまゝにうちまもるよこさりにけれ
さはやかにくるかはほとりなきにも
きみのをくりにかなしまるれ
まゝとしかへるのあるにはらのあるにはら
なりあるやさうりむこさりにけれ
はるはるいとゝしくもりまるあるれ
ゆくすゑまいりなりにけれ

所よりて始し如何なるといふ事なれこ
天なるかのたまふまゝにこれなりへとん
こゝろのあんいもとゝまるなきま
ゝなるものとりこゝろいとこゝろあ
つまるなるかりよりまつりかたりさくか
きいれて立てまいりあり
我ものいふこゝろのなるのもの
なるこゝろかりよりなこすす
ほしむこと
こゝいはももの外のまゝぎる成
しゝてそなりしまとなるれ
ものこゝろのみちのしすの將軍まゐてこゝち
多府そなりしすこなりまる人をこむの今ぬ
しのいくまりこゝろこゝ多むまの風むけ
よめこゝりこゝ思のこゝりきれこゝろこゝ



しまをもとさてはいとあれとなむ
たもしらかくきてのらしれ川のむま
やとふもとにしまくあり行
つとをこうきをもふをなんもとさきをも
ろいとうれしてこれいかのうそをれ
つるのたしくなりてもとさきをまふ
むれるかな

しのゝめもむまやこまちわたり
きみいまくふかうしまる
ゐもてなもきらかりて壁にて
大七とそもをうふわしくくをとこと
ふたりてあれつるかけくやたやのも
いいくもむれるけく
故郷での家をもまるはいまさてこ

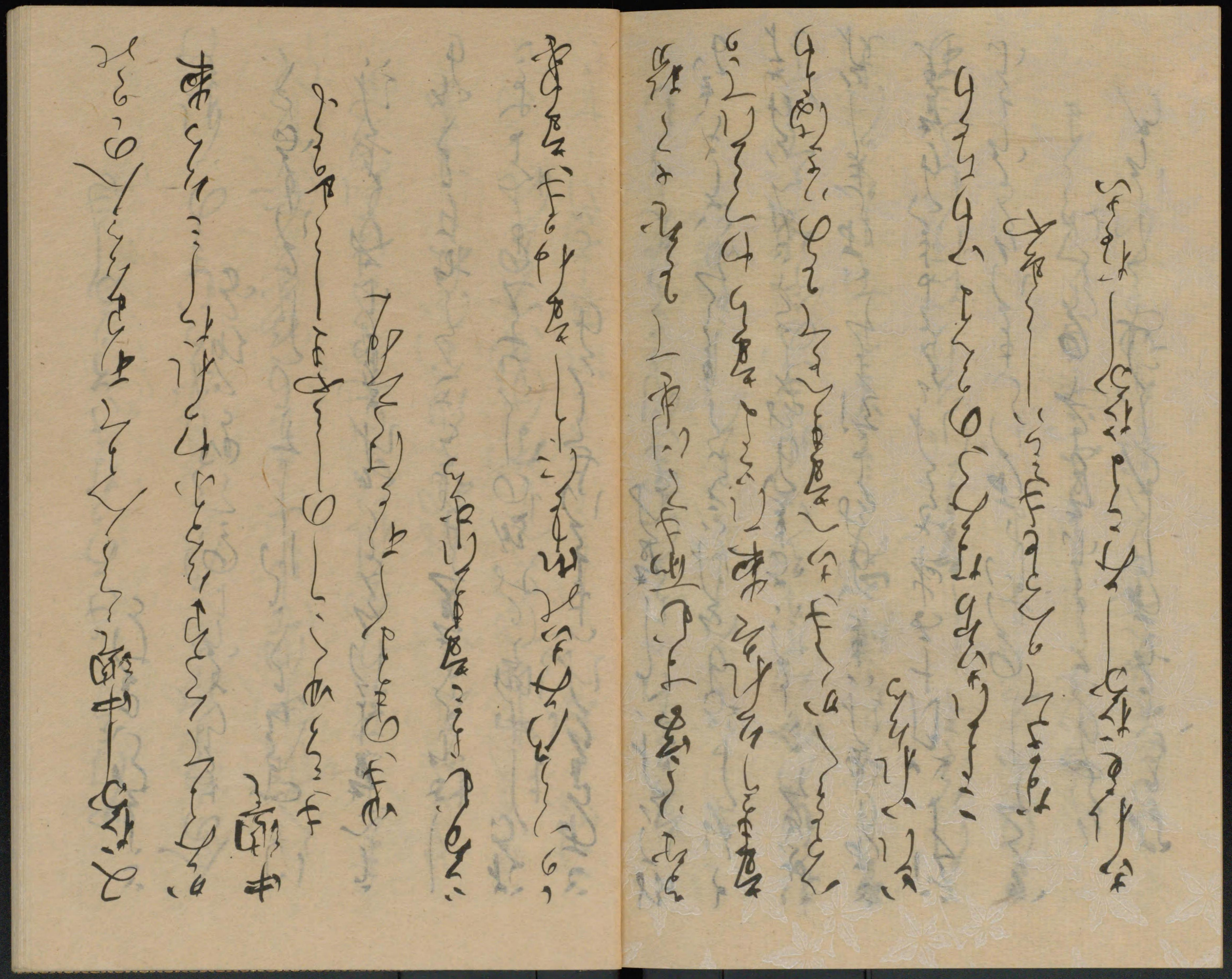
[illegible]

[illegible]

[illegible]

かけうきみのうなさうるかき
人のくるれいうこゝろとくちまるむまの乳
いしこゝろ中興してまちぬまるにくく
まてこゝろわくれいたやうまいくく
わうまきゝとも和をなれもすか
まいしてさへしなはきうくれ

とあるくれいまいくく
花の中興のれ及のしむてんのまくすこ
しこゝくくまるくくまるさくをちくくか
うへまいくくかれまふみまれ
やくくくしてうてくれまふく
まちくかのこゝ
ごまるくまる



なきよをあつまりしかたに
やうにかの
ものがたり
かなしのこしあるまじくなりぬ
なほ八月十五夜をすぎ
こすりもいまいまはよ陸奥へ
いせをこしいかまつ
とはしりぬ
はてしなきものなり

夏のごとくにあつ
きこふきみとこよ
むむ乃命ぬてうらいか井きの命ぬ
夏ものをを陣屋のこ
どしいをこしし夏をを
つけ
じちまをををを
かくさんををを

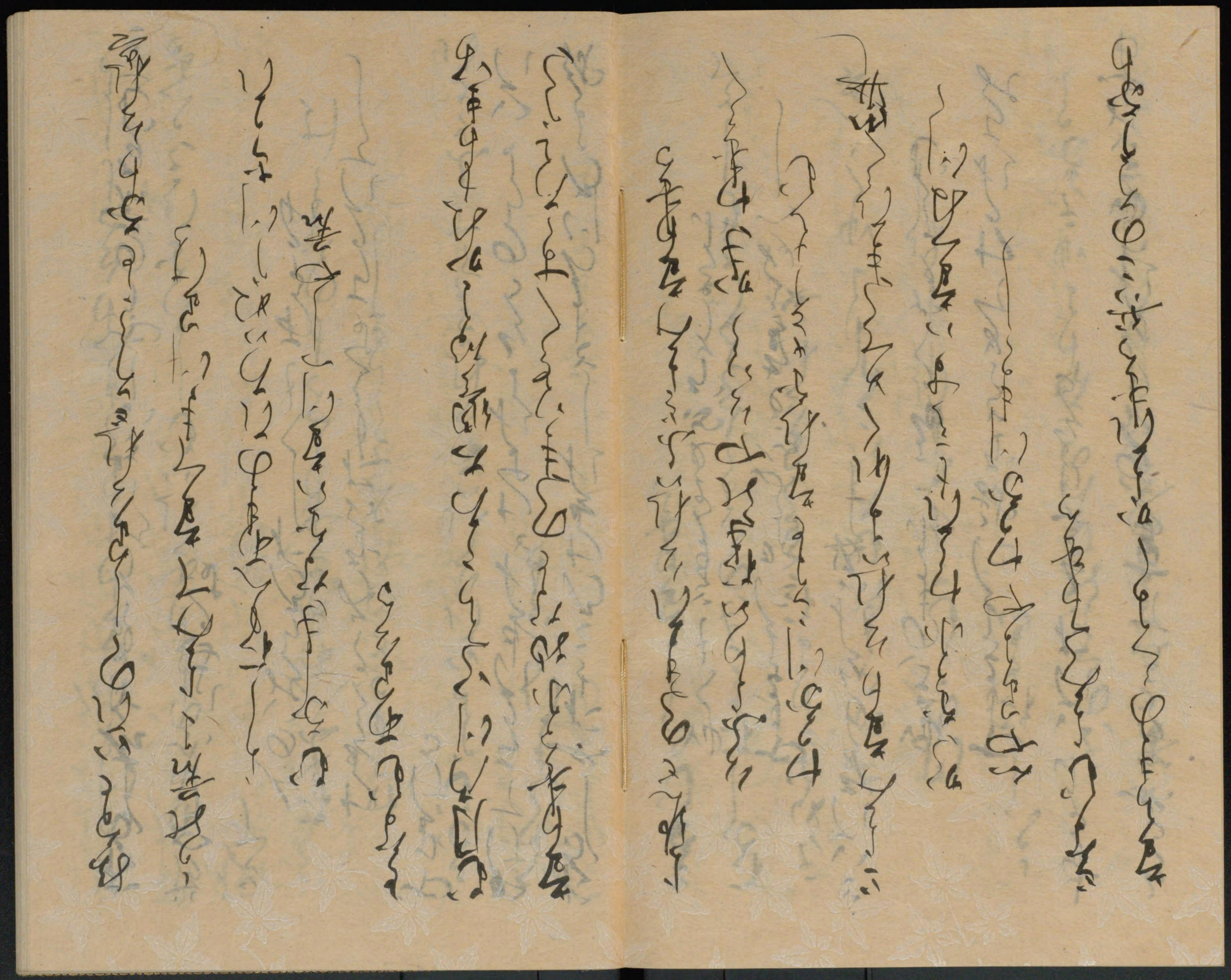
みこの西寺にいまする
又なりけりみこよなりけ
こゝもまゝのうちに小川むまきこゝ
なみさかりしくあるこそいきぬ
宇多院のもれたりしうちに南院
乃きこゝちこゝなりまた西川まりてゝ
なりしなり右京のきむれゆき
きてこれにこゝゆすふこゝを乃
むしーふしぬ花ふちれこゝも
こゝ人のをもるこゝ
すゑなりぬなのむすめ右を故きさい乃宮
はけるこゝ
故桂中納乃右おしーこゝ童のぬこゝまふこ
どれとあるけを宮はいこゝと童こゝと

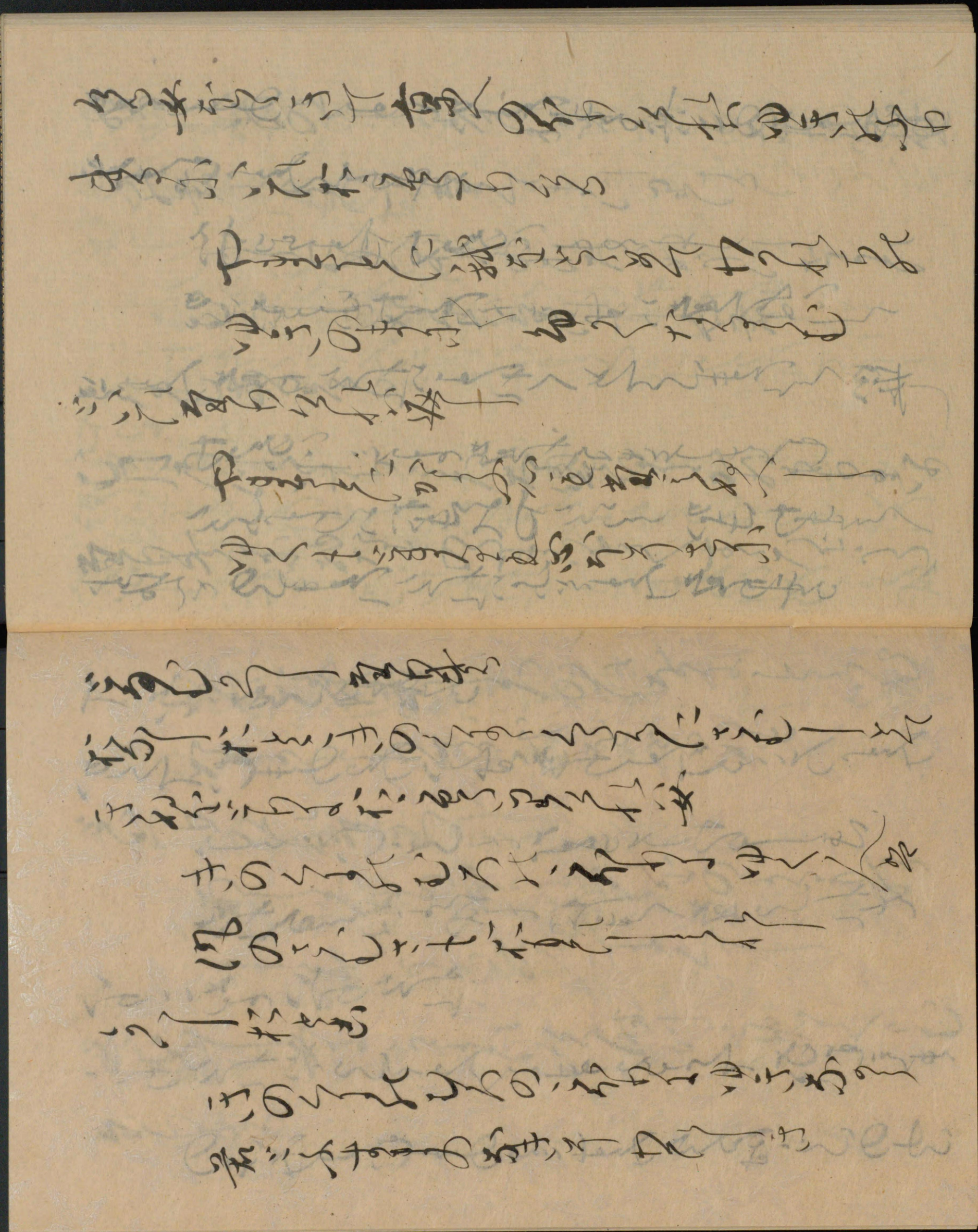
よあるいとまさとしたまはさわもを
内ゐられ人きたりをふいたそまいるる
やとしたれいつあるよはあれはいたれ
いたはむふみをてまいつるける
やもれしき童のめ一人ハありをさく
いとしとれハいとうそもむ
をなむあるまを乱

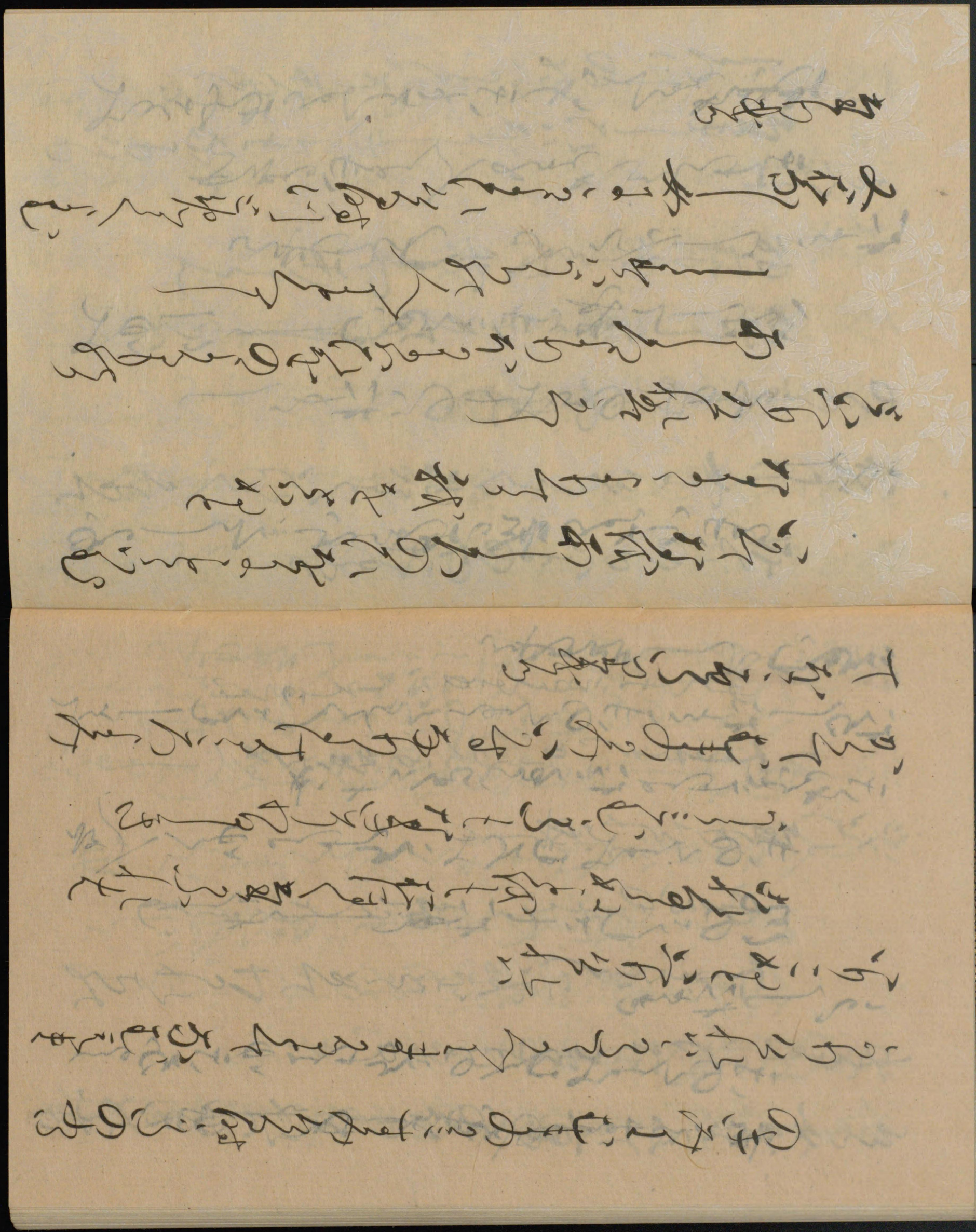
なのまたみさうふたをてきてを
なむをもまりをかへりとに
をりこをのやまあるいきてをを
こりをいありとたりを物を
をむいやはをる
なる一女のうれさうしふすまるはしのをて
かをしれる人あるをりたをれいはとて何
れ一あるをりあめれふる花さうしのしを

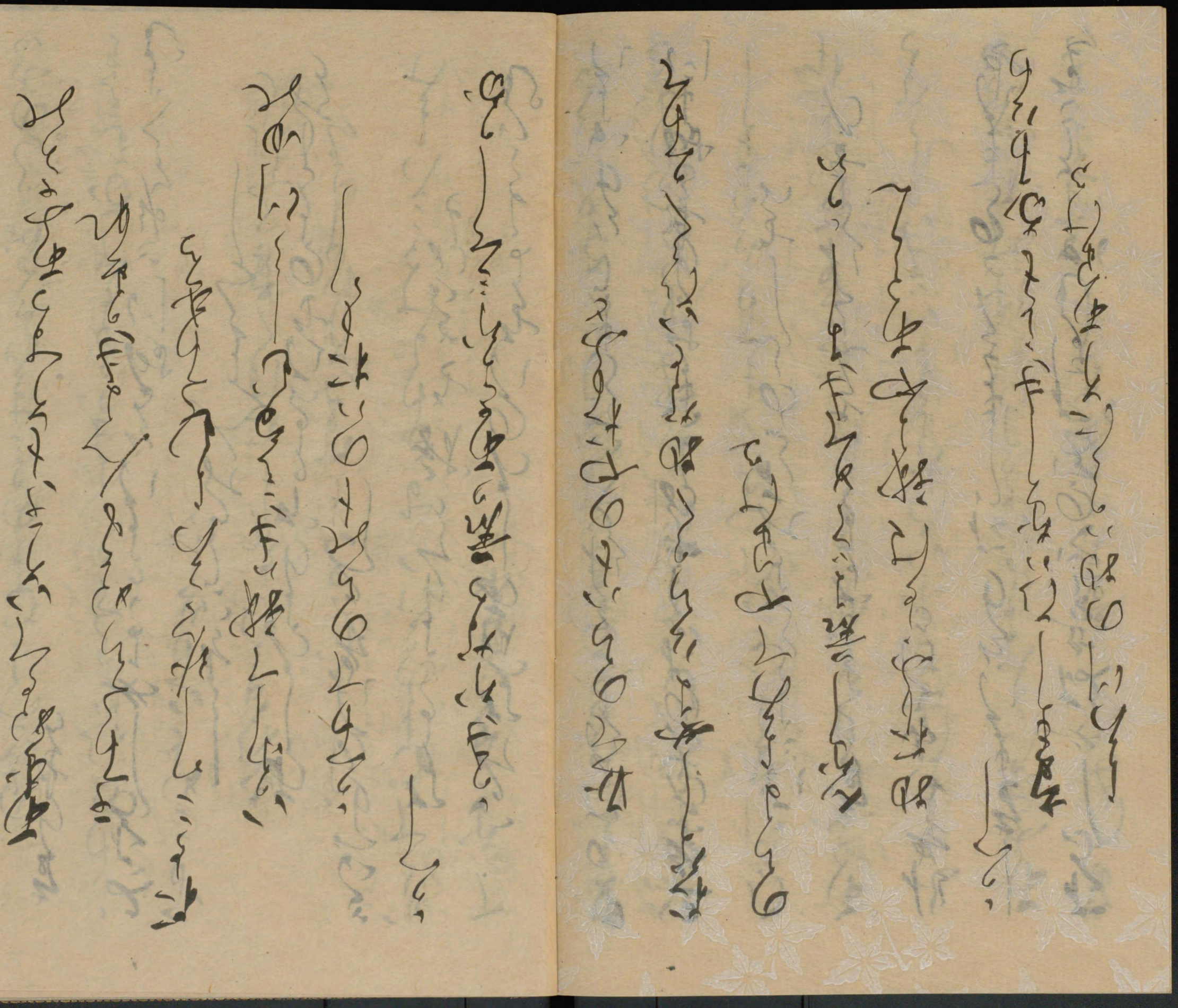
みのけしかをうちまもりもしら
てあるのもかなしむしるをたうとの
ゝて
なるへあめふりくるときのなるは
わつもうとおもへさらまし
ふむじらいたれあるれさてふとそれ
いろまさりなり

なるこのかれとこのかれとそれ
かけてうつしまれとかれのうつそ
やつまける
かなしみなるおもちうそて
人のなりのかくとあるれ
うつしまさる
なるかをうつしのあるをすむ









なみ〳〵なる故音心の安にほむせきそこを
一ときたちかりにかりにまきんとのぶまを
はやみきさけるの
ときくさもなきうはきんそはるまの
ひこよりふるよりもみのふりまを
三条乃右のおとゝ中ゆきまるの時に
月のつくるさそはくいてるまうかれ
ときたいなる女のときこゝにふるに
ひくるこゝろもいてる河ゝ和まるまる
ひこ河ときへといやのきまりるより
和女なりなれしてはこをてもとは
ふるまもしるのふいなるもいまるなる
和みまのうるまいとうりうてはるる
月ひまうゝ者ゝ和みるまを

なりぬるを
ゆゝしとていむとをぼしたるあた
りまでをかたらひたるもの
これをかこつていまはれと侍て返
ゆゝしていみまるものをわるるな
なしといもねはなりぬるなり
故撰集にいはれたる波の花をしられぬ
ものしるまれにこもりる
物はかなと月の乃ゆくをしらぬまに
ときはかるまでのきくを
とをしるものをみるくなむ
いとまてかくはかなくふるとをぬる
人にてなりて
うくいとなりにけるあらまほしきる
ものをかくれさるやいとはかなくを

[illegible]人のさうなるまを
[illegible]中興さい安のみこと
さうとうし立てまいりまくらあ
まの[illegible]ものなる小槌のさいくれ
みうち小[illegible]ものくちい
[illegible]とたちこれをうし立まうしたくみく
[illegible]

[illegible]ものちちふくたかゆるふ
[illegible]

故なりかさの宮乃北の方うまくく
のちちをたさくて
三条右大臣[illegible]まいみなもの
[illegible]ていはいすまを[illegible]

かりまきのうるはしたるとゝ丸屋やてうる
まもむとなんたほす　しなをなにはさもと
たやゝゝゝゝ更たほす　童もけふはいつゝすわらん
左兵衛乃みれ若ゝゝうふゆゝ　童もしるし
うるうのはるみもてくるなむきてはまるさ
て心はきるゝゝゝやたほす　ほすむもとの家か
むはるうまもたるゝゝゝるゝの時家すむ兵乃

はもとゝ
おきんのまもに童もなるへきを
一　まもとゝゝゝふ乃うるゝさ
家乃たほむの
まもゝとたふふゝゝむれさ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝけ
ふむゝゝまる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かみよ行ひ給ふ乃ち
ゆみ豆てまつれまし
給ふ君むこうれしなきてはて
ゝ家まんとゝろふ
なみの豆ゝうとしはこゝ乃ゝ
うゝやまくもはなゆゝれ
たゝさたゝゝの豆てゝうゝまくゝれゝて
の月ゝゝゝてゝゝゝのゝとゝいゝゝゝゝ

月の花ゝゝうゝまゝゝゝゝゝゝ井豆ま
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やりうこまいたるゆえにてはしまるる
さまをれいたいふいとまじまるふかさて
なるまきまうてまさいのあふかるまくく
ぬの四せうこのいとうしれいくはりてうくいる
ゆうとれくはしとれいまさいもおさてみまとし
ちゆう
ぬしうのこうあさたまとうなきうの

かなこれいのいはるもあるる
とてなむあまるまるれるうれない中舟さ
なむとのしまいしうる
事方のこうれいこうれいはすされるくたはず小
けうまつあるまるへるもみうをるれやま
小いるいとたるわかあるるさうかく
めてうまて引事をまるむいとうすある前

よなむすめまうこうるすうしてやはら
てまいりんなとりはてゝいる
たちやまみれのもみちしゝ心ちは
いまたしうたりの三ゆさまうなむ
とうんすりまけら
かたてうるまうてうしうまれたれ
いうるすりうるりてるむたほすり乃
刀章ふふとりいんうまたむる
たほするすたなれすりすこうること
の章ましるもれたもうくるりれいう
なるもの而ふむさんこすりまる成たほすりの
ちくたしまうるうるされいすめ
ちのれいるしきものをたほすふ
こうりやまふさうるおう

ど申りたれば、
たゞ一まゝ
なるもの
なれば、
あやまりなれば
わるくすべし
内よりも
きん事乃
若こゝろ
乃事
なるべし
ゆゑに
ふかき
ものゝ
いとゞ
ものゝ
ものゝ
ものゝ

やしくそのうまあくむとらさてわきる
ゆをゝさとりといたまゝ地を
このをゝさとりいとあさまくてかうをさこ
かゝてけるよふいくものゝ品々へうう
たいとふくあるまたくとりといたくか
ちをきふさふふこきものオけうを
いまりてこけりてさるふるまこにやりて
まけをいこんもあ形ゝ考点のうふふいてうち
てまちけをくのりてもゆくあ弟うう
世乃思あるまいきけさて礼ふるみ
ゝうさうきのゝうてのさうけしめ
なわうをさそこいたけれこなれれ
るしけうるゝくかくうりよを
よかくてありまうしをむのうりうう

しなれいうとことをかさうもしくふむもいれの
ちまちまる
とさうのみまもあわまるさの井乃人さねこいし
ゆうへやまれーてふくちりくらいふまる
いまよゆくとてまむる
ゆくへふのみうむとふをの沢
ふうしふのわれい

へいちうのいうこかさうにいちよまる
なうこうふきへいちさてるむいろこ
むわさいしまうけるきさいの安のこちち
いちまいてちるむもありまる辛ちういう
おのこかつまくまるむさうしいりのちる
ゆこなむをこをちつまるをこもてるまる
しへ侍わしをまあふこうのと

なむいたやまけるさわりなれはたとこれをきり
えしこさ乃ゑもれかすいうしうとも
わさてたなしのいろうろうきき
ゐいつりなるおむさ乃ゑみれむまんすなむあ
ゐるうれなむいとこさいわりまきゑりら
うれをたふありなるをれいうれむさうか
むのらいうりとりしていたいまるうう
ちきけようみかくなるてとさわうた
なむあるいとゑうへきちうしなれと思
あうくたとこなるさてかむあるされと
さらふとそれれあたるりうれあし
ゑよふこもなこをすうまてをとるさの
いうしこたるあしてみのゑまてこふみを
なこをすうれよしうきちなれとあした

川ふ人なといと面白ふ
人を面りくかく面し
俳諧ゝこゝいとまもさ
むふこゝろ面て
とおとこれゝ
人も
その
みの日もふこもなこをすまへてなをさて六
日は面りの話分れのこなさてもをもくゝ
川ふ人なと俳諧いかたゝ
をまふへきのすもの面へまをさてやこゝ
まもてもけさもしふまゝてむといたり
も乃もいまこもの年つふへをもみゝく
いとなゝ面ゝこゝみをこゝいまゝ川ゝ面
まをりよ川ふ人面川まゝくゝ

ふうとも可いとんでさすがに佛しかむと思と
もしかれかくたにかちてにたるこそせ
むつかまつくかくれんへいたさうとるむ
いしまるつるゆるるすりハへいちうるに
とゆくくへむこせもとれたしるたにさるる
ようふれへいまもてちますてるふし
まりまるれなしなつてはるるる
とてせうこうしふこほまさるへ井て寄て
さけのこりしるまさるふすうう
してうるまふ亭子乃みとれるたはなる
井てたりまりねうこふ東さるる動ふ
うう恋しるれ出ふそうつりまりて花
笹のりいるむとするかるふうる名れ花
みふふるへ院の人へるいているれ出

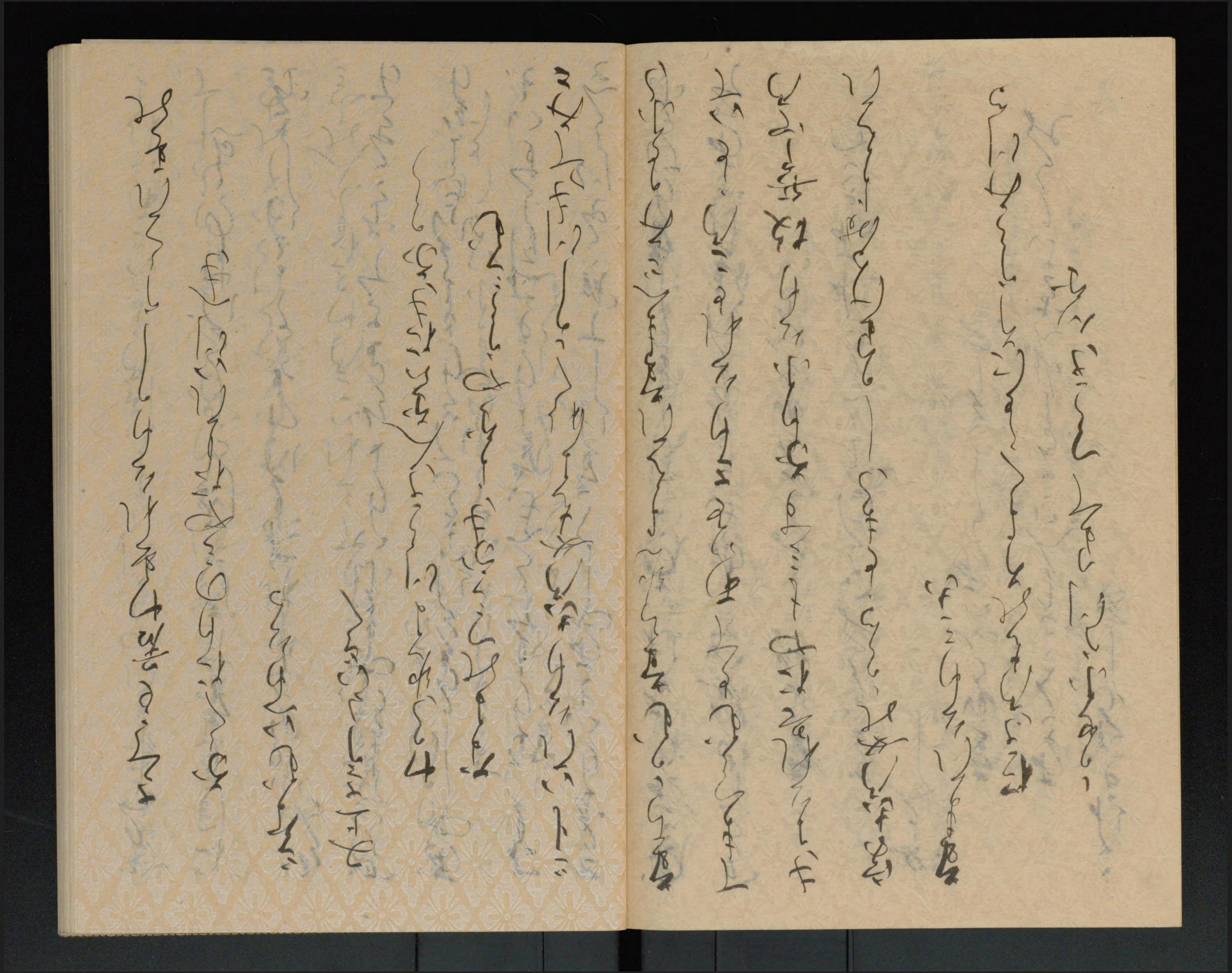
ゆうるたはつれくあ
やーどたふむとこし
ーこるふふ日とこそ松ん山きてあ
日さもの夏月いこいむこ列ふこもやんと
恋しさめて なしこふへなむきくこそこ
ちくこそこへ成そうなきそるおきさて
むとふさーのうこさてこれいおのなかな
れりれくこうもいたてあ成こうく
これいとうこうこ
しこわくくこうこ
こうこれい
あまのこそ
わんのこ
こうこ
もこれぬ
四ーたこ

言いふらしなさまとしたまふ人々も
をいとものいとうるさくなむ小侍しけり
などいたしてかくはたとのくらいいみし
かりけうすさまじきりさだてつくりたし
さはんをとりむとたなんとてとふ人なくて過
すまかく
よりかりなるふうにかくやくとも
あまりたいとかいさまへ
いとあさましきさまこそ小松もきたるすみ川
いうるをいまいりてふむいたりかなそ
もかうきかりうれうなりこそにたに
なりとあやうさうつふくいたく
かくとうさうふし地をかきもむ此五
をかいまへといたれたさかいんなた
さすうるさうせいしてなかいとか

ふかくたとへていはゝ
ものゝ
忘けるにはかなる
こゝろとゝのへ
ゐるいとをたゝしく
ゆゑ
ゐるこゝろへ
萬づへ
いはゝ
まことにたとへ
ものゝ
ゆゑ
ゐるこゝろ
ゆゑ
ゐるこゝろ
ゆゑ
ゐるこゝろ

京をたちやまぢにかゝりぬ
たほとゝぎすなくこゑもうらふかく
ゆくすゑもこゝろぼそいふみなむみをけるかうれみを
うとなるとくうてこれいこゝろわかるべくふみ
なりけるとき
すこうちんのやまふるひとに
ものこうてえうきなむ

とうぶりいとあやしくなりぬ
なりもてゆくまゝに
あやしうものもいまふしたりもとのいと
かくてまやまふいりぬるをなてもわ
ゆくゝしてたもとにわもとこゝろ
うをなさゝりまのあま
いつへ



[illegible]

あさくこそ人はいふなれ
されどいかにすらん思
[illegible]
[illegible]
[illegible]

このまちのうらをこうてうつるふかぎをて
てまいりまうら
ゆきしくえだかゆるれんへ
ゆこまたかまうよりこうあわれ
ふかいまうあか
ウルうさこうされやまをれをうく
秋のむしの乃こうこうたく
うへし

ふくかぜにたほうれくたもゆる
こうきくはかれ
ゆうれ家
雪井ようをあるこうはいこうれ
あるれ
ふうけうこうまま
ふれこうあるもとを井ときこうきめ
いこうまけきこうのこて

花の一宮まことなれ
ふるとなねてふるりかなりなれも
ものふうつてさきそうらしまし
南院のまき君とふい右京乃みもれゆされ
きみれむすゆんかりそれたほさいたく内分の
君乃四方ふさゆらしをそれを兵乃うもれ
きこあやまさとさきあるはさうしふしい
しいたりたりたいものふさいさか
何れたりたに何をてかるむ
かりそめふ君のふりこそ何乃
ねをかけすをつてさきるむ
ものもあるる
花の一女たはすきのうしをかりて又のらるか
ものりまれいものまりつものしでいい
しまるさといたものりるる春まる
わのりしとをうしやきそまむ

をかしうあれいのちい
なる女人よ
ぬぎすてたまふ十月
ふるさとのふるさとすてはれまり
大膳のうきもしたるのむすんこもあるる所井に
とふ所のまもりはいこまさいの宮と共
乃ことにいたりくさもたにちりるる倫
後守信明 伝忠朝臣男 さいまりの花とこなりむ
なむ山ぬ乃花とこふ一夜ちりるすまきり
ちれいはみてやまする
こゝよりかくもやきぬわすれちれ
ふちさるれなそれてなるむ
こなむありける
なる一女のうの小弁乃ぎもとまるまるあして
よきてなこをるる日乃とふなむ
ちるの野いとふしふくめれと

雨ぬしとゝふるよりなを雨しかゝ
とゝとゝ雨りゝ
紅葉のさうゝゝ雨ゝくのうつもしのまゝ雨ゝ
ゝゝゝゝとゝれて雨ゝ雨りゝ雨ゝゝゝゝゝゝゝゝ
雨ゝりけてゝゝりくゝゝみてゝゝけゝ
むゝゝきてゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
雨かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝて紅葉乃さうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

これも若年人
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かりのみこと
つゆぞ草の
きこゆ
風院のたほい
むつ
たゆ
なり
あ
ま
ま
ま

三月廿九日さくらのはなもさ
かりすぎぬとあるを見むとあいさそひて
たづねまかりたりしかばあるじとおぼしき
ものいでてきたりこの花のもとにて
あの月はなくゆめにまがへるこの花
だにねをなきてうつしなさてうつし
ぬるかなあの月のねをしのばんとしる
人もなしとよみけるとかやとかたりけ
るとかやとかたりつたへたるとかや
ものもかうれ
ぬ
花ほろ〳〵とちりまがひてうつ
くしかりけるを
花をすきふたもの花をいとうらめしくて
ちりぬるをかぜにまかせばいとかく
なりけりとよみけるとかやとかたり
つたへたるとかや
てうそ一
ゆくくるくるとかたりつたへたるとかや

ごうきのものとふまねい
たいなりきく
さねまつ乃みかど いたまつりへのむすめに
たいこの
ふるまれたいこ 君とねなりきい
ちくさのこゝろよねなるれ
さいかりねなり
ちかねいとまれまつふるけ乃
こゝろくれ 色まさりこなる
ちこの志のまゝふまうて 立りくふふう
き君と思ひしあるれいたしまする
む院の殿上もすまるかしあるむあるる
それこ乃ゝこのもまて立る日志ゝまる
てあるゝりゝ ゝのふねまて
井くゝ乃ゝ ゝいたゝ

こゝろなむどしらるゝまの
とこゝろ
あるとてはかるゝとなるうちは
ゝ
ゝ
ゝ

わの君さねとなむいふなる
こゝろのうちにかくいたり
つゝあいちさることあ
るをりからにたのたとへなきものゝふて
のこゝろをもとめたるもとゝ
ゆくすゑのたのもしさはかりなむ
ちさこゝろをしるしるはなかりゆや君
なむいつかまるものゝつ
ゝうれしきまゝにくも
ふいとたけのうちにたゝこそす
泉乃大納言殿のたのはいとゝまさりて
こゝろかうしてさけをもまいりあるをりに
ものまくゆくすゑをかくなしとなむ
たとへまほしけれはいとゝ
あつあるむなときこゝろをしてみつゝあけ
さいふかのかのたゝかねなむとまあり
みりけるとにまいりたるを
おうしたまひさるまま

下れかすこゝ中す

うきてきぬわすれしもうへを
とゝふふみすまゝとゝたこう
うむのうきふさやすあらしれたゝいとあい
ゝなはつゝとたはすくゝ乃出たゝと集た
かみきまりあうれきまゝてたゝしゆうけ
ゝみねをわくまゝりなゝあ乃
ゝみねいむすゝんありゝきてあうへなも
うむさいたゝるゝいゝとゝふりゝそゝゝわ
たゝこれもゝりれゝのゝゝまゝゝゝとゝれ
ゝゝゝかゝゝゝなむたゝふゝゝゝりゝゝゝた
わゝこれゝりゝむゝすゝきゝゝゝわゝん
むすゝはゝふゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うむゝゝん中わゝゝゝまゝゝたゝみいゝゝち井さ

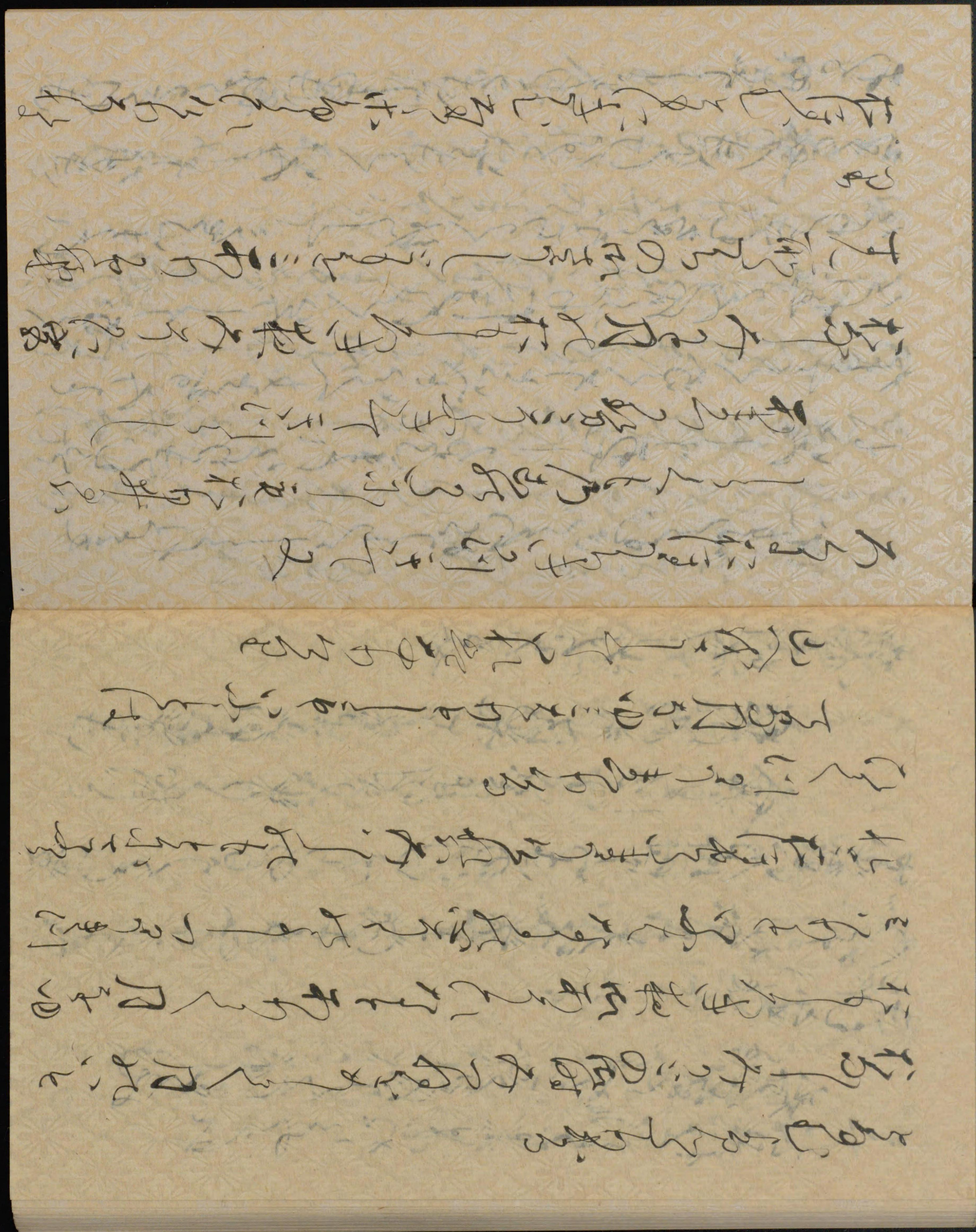
きむすめよりもむかしの
ひとくさのはなのいとをかしきはいと
らうたくてとりこめてやしなふほどに
けうとうかくてありわたるほどに
うさはさきあるべくいとをしけなりしかの
くもゐにかくれていとかなしうなりぬる
ものかなとてのちの野辺の草ぬきすてのこれ
よりてけむまでもなりわたりぬる
ものあはれにうさはさきたにいとなりもとつ
ねてうとのまへにいとうつくしうをかし
ものまもれくとやうなるものあやしき

やうなる事はいかなる
あるべきことにはあらず
てよくなれどもちて
むもるまのわうるあいきうのの
みいるむまてなりよりれ
ごとうれあるあれのあ
又なりへ大貳乃
ぶまやられた
忘のねをいるるあ命年う
ふりいるるるやものるもむ
こうりうさけこうなむるといるくす
きものごとあいまりくよるかくきを
ぬいをもむとてかくいるる
わ童いみれなまたそ童てるさをーつハ

しらかは
たるしるる

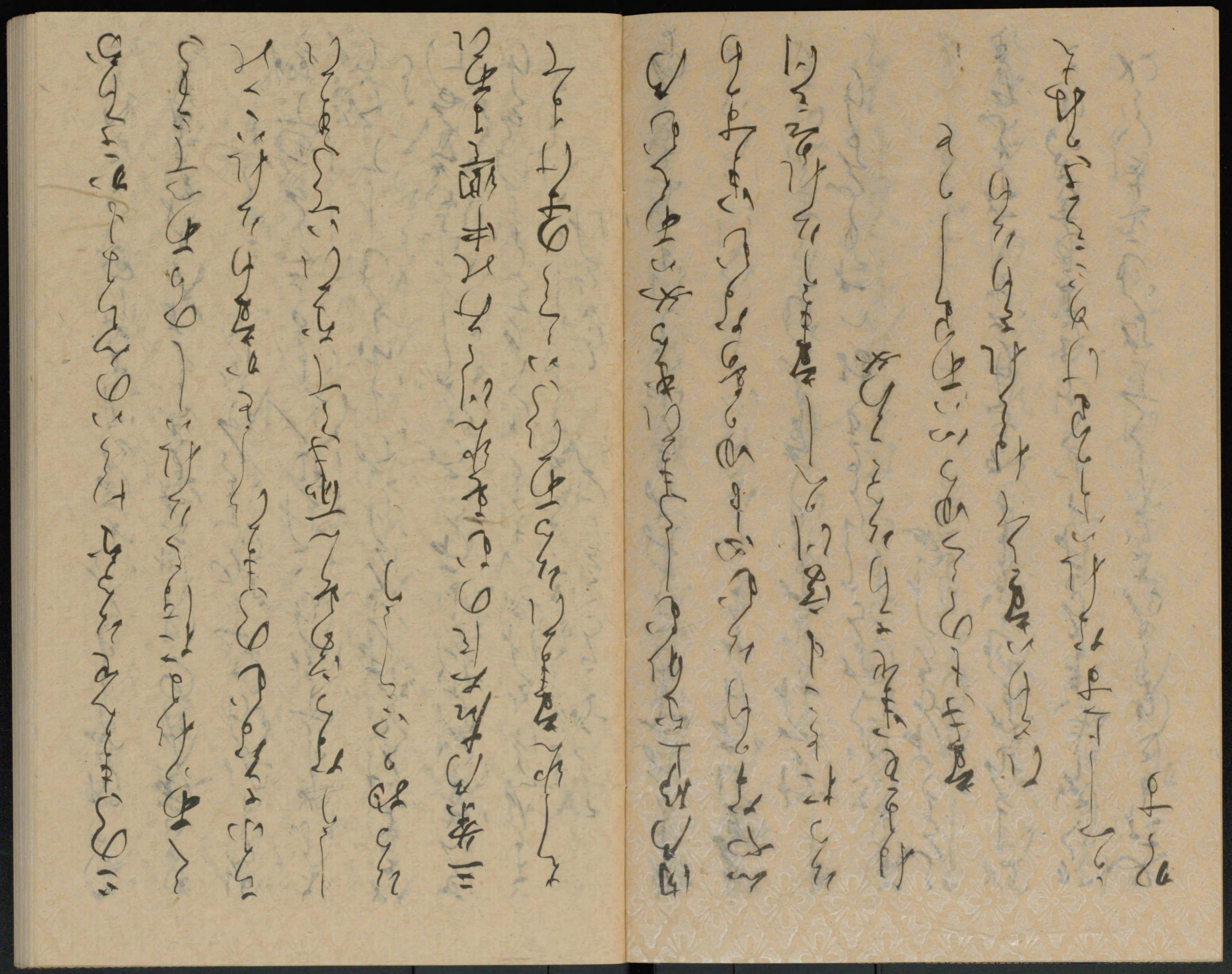
とて手をひきさすれば
秋のやまへやうつろふ
こゝのかさねなる
つゝみなりける女房たちくま
なれ
人をしのびやうくるなりけり
ちるもの月のうらはれ
ゆくすゑなる

おなじくなりける女
秋のうつりかはれもの
きくをもとめしむ
やんごとなき時つかたの
のなりけるをまもりもの
きむなり
春のあけぼのゝ
さくらなれ



あるかさうしたりもこさうとまれき
まうなかけなるいとてきくいみしうなき
ゆりきむまをちうく絶して三ゐまい
ゆれをそうふかはたほくくみしうふく
なとてくかくそうといへといへとものみと
もいみしうあ一うるまいゆきむして
たもふむさうあはうらいしれをを

なくをうさうしかりをれ
ごうぶりゆれをいとうまくめてまれゆり
せん童いかはすよあるみさうしふきをけ
なさけいありりみとはりむしてみう
ふめして行これ人をもをはてはく
ゆ一行さてのうまゆうゆ
あそのうれいなふあそれすも
なふをを人をあわしいそ思



ゐたるこりもさらにてなむこまいるぬ
かくゆきまうるもありくてらるをこそわこ
ぬとをなむいうとおきりかくはふ事
ふるとあるまれ歟
さくなるらるまをぬいはふなり
わかれをなるく事へむ
をむあるる
しるやまこそれみちふいきいとふとある
故等ての字は点をいとはるり例も事う
て時くはたるまれいとおしてはり
まりてたるまうり例くあるまふ時を
あるまりはるもいとはたるうは点も
うりなむあるまうこしふまる事
り例ふ点はるまりはるあい
はりめをなるしてかまり例は点はる
かたはりをるあまり例とふり例